

Follow up

会長の時間 15－今の手続要覧から見える事

本日は、ロータリーのトピックで暫しお付き合い願います。手続要覧の簡単な説明とその年々の変化から見える事などわたくしが感じた事をお聞き頂きます。

手続要覧は、ロータリーの方針や手続を簡潔にまとめた文書。特にロータリークラブや地区のリーダーを対象として編集されており、クラブと地区のリーダーに最も関連する情報が収められてきました。現に会長エレクト研修会とか地区協議会参加時に手続要覧持参の事と求められました。主に3年に一度の規定審議会の決定を反映した上で、3年毎に改訂されます。物としては年々薄く、コンテンツも少なくなっています。例えば2007年には310頁あったものが、一つ前の2016年はわずか118頁1/3になっています。

My Rotary での手続要覧の内容説明では、構成（クラブ、地区、ゾーン、国際ロータリー）やロータリー財団の方針や手続を概説、ロータリーの活動では、ロータリーの方針、手続、プログラムについて、又国際会合では、RI 国際大会、規定審議会、国際協議会について説明した後、組織規定と法的文書組織規程、つまり定款や細則以外にも諸々の説明があるとなっています。しかし実際は2016年の手続要覧から目次で判る様にルール以外は、ほんの5頁基本理念を説き、これに2019年版は1頁ちょっと戦略計画を足しただけです。かつて例えば、2007年版では、奉仕プログラムの総論を説き、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、青少年と何十頁かずつ割き、親切にも重要な語彙、特に英語も解説し、おまけにどこを見れば判るか索引まで付け、これ1冊に収めてくれていました。もちろん完全に十分ではありませんが大変役立ちました。今は理念と戦略の短い説明とあとはルールのみです。

この事は一つにはWeb上にMy Rotaryがあるのでそこで必要な情報を取れという事だと思えます。もう一つは、RIの変質もあるような気がしてなりません。My Rotaryに関して申しますと、根気よくクリックして必要な情報をたどって行けば網羅的かつ詳細に情報はあります。ただ普通の会員にとっては、そこまで掘り下げていくのではなく、何かの合間にざっと流し読みできたり、調べたい所だけぱっと目を移せば良い、そんなアイテムであってほしいのです。それにはWebのMy Rotaryは重すぎ、網羅すぎると感じます。

コンテンツで言えば直近のものは、さすがに基本理念だけは、決議23-34や4つのテスト、目的、五大奉仕等々短くではありますが基本中の基本が書かれてあって、長年にわたって議論し、繰り返し練られ、教えられ教えていった内容、言わば熟したものが載っています。でもそれにまだ多くの会員に熟しているとは言い難い戦略計画をわずか1頁載せ、後は全てルールです。まさにMy Rotaryが、手続要覧とはと内容を説明している通り、クラブや地区、ゾーンやRIはどう組立っているのか、財団ってどうなっているの、大切なルールが決まる規定審議会はどういうものか等々、まさにMy Rotaryの説明の様にコンテンツがコンパクトに概説しているものであってほしいと心底思います。

ここにどことなくRIの現場目線が無くなっているトレンドを感じています。それぞれの国のそれぞれの地区の、個々のクラブにいる普段は仕事に追われている多くのロータリーアンに染み渡っていくオペレーションになっていない、そんな気がします。

おまけで2つお伝えさせて下さい。手続要覧やMy Rotaryを調べる時のコツ、一つは「大事なことが細かい所にあたりする」、もう一つは「時には原文に当たる」です。

ロータリーの唯一の公式言語は言うまでもなく英語、英語に当たってみる価値があると言う点です。

恰好の例、2019年手続要覧の48頁、標準クラブ定款の目次の下の小さい文字で実は大変重要な事が書かれています。

『RI定款、細則、標準クラブ定款、推奨ロータリークラブ細則の全部にわたり、次の解釈原則が適用される、「shall」、「is」、「are」という単語は「義務」を意味し、「may」、「should」という単語は「任意」を意味する、そしてその事は、国際ロータリー定款第15条に書いてある』。

小さすぎ目立たず、普通は気づきません。見ません。RI定款、しかも15条って！

そこで例の問題が解決します。クラブの細則は自分たちで決められるが、クラブ定款は、クラブ名称と所在地以外は変えられない、そのクラブ定款に、我々の委員会構成と全く違う構成を「有すべきである」と書いています。この“べき”がくせ者、普通日本語としては義務を感じます。原文に当たりますと、先ほどの解釈を説明した用語の一つ“should”で書かれています。任意であって義務ではないゆえに、この構成と違う委員会構成もありうる訳です。もちろん英語に精通されておられる方は、「should」はしばしば「～すべきだ」と訳されるものの、実際にはそれほど強いニュアンスはなく、日本語でいえば「～したほうがいいよ」又は「～するのが正しい」になり、「must」や「had better」に比べると、それほど強制的なニュアンスはないとご存知かもしれません。しかし普通の日本人が“べき”と聞くとやはり義務的に捉えます。現にそんな問題が恐らく多発したのでしょうか、ある年度から各ルールの目次の下に先ほどの様に書かれる様になりました。だったらRIの日本語訳を変えるか、この注意書き、もっと大きく書いてよ、そんなところが現場目線が無いんだよな！と思うのはわたくしだけでしょか。

本日はこれにて、おやかましゅうございました。

2020年10月22日第十五例会 会長の時間にて 東野裕暢